

第2回専門分科会概要（委員ごと整理）

伊藤委員

- ・支援組織とネットワーク、分野を超えてつなげる必要がある。多分野の連携によって、ボトムアップ的に支援に繋げていくようなことが必要ではないか。
- ・住民が人材としての意識変革も必要で住民が作り上げていく居場所を創っていくというようなことが表現できると良いのではないか。
- ・各人が自分の居場所だと思うようなところにいきつくこと、本人たちが居場所を選択するという選択肢が多くなると豊かな地域になると思う。

亀井委員

- ・子育て支援や教育委員会、産業労働などの横串を刺す必要があるのではないか。
- ・多様な気づきを得るために、学びが必要。それを助ける人をつなげる地域づくりを行う。地域で解決できない部分は行政も含め、専門的に支えていく、後方支援をしていくというような整理ができるのではないか。
- ・啓発を含めた広い視野を学び、地域の中で支援人材を増やすための広い学び、専門性を向上して多職種が連携していくという学び等、学びにも段階がある。
- ・地域資源を整理して、関係性を整理していけば、県が、市町村、地域、民間でやるべきことなどが見えてくるのではないか。

小池委員

- ・多様な就労の場や活動の場が必要なので、そういった視点が入った方が良い。地域に在る色々な資源の有効活用に地域の方々と連携しながら障害者も活動で来ている実践もある。農業・林業に関わらず、高齢になって事業を進められないところを障がい者が担い手として入って、事業継承をして地域づくりにもかかわれる。
- ・1人の障がい者をとらえてもいろいろな分野でかわりが無いと生活できない。横との連携が福祉を支えていることを実感している。

佐藤委員

- ・この計画の理念や上位概念について意識して進めていく必要がある。
- ・福祉以外の分野との連携や投げかけ、連携ということをしていった方が良いのではないか。
- ・行政と民間が何をやるのかという整理。困りごと感によって、相談のレベルも変わってくるので、どこまでが地域で、どこからが専門機関でというようなものも整理できるとよい。
- ・側面的に支援をして住民の方が作る場を創っていけるように支援をすることが大事。居場所にも濃淡があり、地域住民が行う場所と専門的に特化する場所がある。地域住民が行う場所は側面的に支援する必要があり、社会福祉協議会のような組織の役割となるのではないか。

澤柳委員

- ・重層的支援体制の中にはボランティアということが入っていないが、どう位置付けるかは考えた方が良いのではないか。
- ・相談の重さなどで整理できると、支援者側がつぶれるようなこともないのではないか。
- ・行政の方でもネットワークを作ったり、民間にお願いする部分を整理できるとよいと思う。

戸田委員

- ・福祉は住民が作るものだという考えの中で、学びというワードは必要ではないか。住民の学びや専門職の学びなどの視点が必要ではないか。
- ・地域の方の垣根を超えた出会いが生まれるよう、ネットワークの推進が重要と考えている。
- ・コーディネート力が発揮できるような人材の育成がないと、実際につながっていけないのではないか。
- ・居場所は日常の中に沢山あり、日常に根付いている場所が居場所だと感じている。まちの縁側ということで取り組んでいることがあるが、地域の居場所を発見できていくようになると地域が豊かになっていくのではないか。

永野委員

- ・重層的支援体制整備は大きく掲げても良いのではないか。ただし、名称については表現が工夫できないかと思っている。
- ・取組が少しバラバラというイメージが強いので、行政と団体の連携や多分野との連携の視点は重要と考える。

堀田委員

- ・「地域共生」等は福祉のイメージがあるが、福祉の部分だけではない「ごちゃまぜ」というような表現、分野を超えていくような表現をしていった方が良いのではないか。
- ・いろいろな場所、人が関わる場所が必要だということを後押しできるようにしていければよいのではないか。
- ・行政に協働を求めても難しい部分があるので、社会福祉法人等の民間事業者が取り組み内容によって行政の多様な部署と連携することを促すような書きぶりが良いのではないか。
- ・ルールが多いと行きづらい居場所になってしまう。日常的な居場所、居心地の良い居場所を作り多様な人がつながる機会があればよい。そこは行政では難しい部分と思うので、民間の力が必要だが、そこだけを運営するのは難しいので工夫が必要。

横山委員

- ・ヤングケアラー、若者など、福祉という枠が広がっていく中で、どこかに落とし込んでいく必要があるのではないか。
- ・居場所というと、福祉という印象が強いので、使い方が重要。場所は箱ではなく、精神的なものなので、福祉的にとらえすぎない方がよいと思う。地域社会の中に既に沢山リソースのあるものが居場所となると思う。

第2回専門分科会概要（内容ごと整理）

○ 学びの推進、人材育成について

- ・福祉は住民が作るものだという考えの中で、学びというワードは必要ではないか。住民の学びや専門職の学びなどの視点が必要ではないか。
- ・啓発を含めた広い視野を学び、地域の中で支援人材を増やすための広い学び、専門性を向上して多職種が連携していくという学び等、学びにも段階がある。
- ・住民が人材としての意識変革も必要で住民が作り上げていく居場所を創っていくというようなことが表現できると良いのではないか。
- ・コーディネート力が発揮できるような人材の育成がないと、実際につながっていけないのではないか。

○ 居場所について

- ・各人が自分の居場所だと思えるようなところにいきつくこと、本人たちが居場所を選択するという選択肢が多くなると豊かな地域になると思う。
- ・多様な就労の場や活動の場が必要なので、そういった視点が入った方が良い。地域に在る色々な資源の有効活用に地域の方々と連携しながら障害者も活動で来ている実践もある。農業・林業に関わらず、高齢になって事業を進められないところを障がい者が担い手として入って、事業継承をして地域づくりにもかかわれる。
- ・側面的に支援をして住民の方が作る場を創っていけるように支援をすることが大事。居場所にも濃淡があり、地域住民が行う場所と専門的に特化する場所がある。地域住民が行う場所は側面的に支援する必要がある、社会福祉協議会のような組織の役割となるのではないか。
- ・居場所は日常の中に沢山あり、日常に根付いている場所が居場所だと感じている。まちの縁側ということで取り組んでいることがあるが、地域の居場所を発見できていくようになると地域が豊かになっていくのではないか。
- ・いろいろな場所、人が関わる場所が必要だということを後押しできるようにしていければよいのではないか。
- ・ルールが多いと行きづらい居場所になってしまう。日常的な居場所、居心地の良い居場所を作り多様な人がつながる機会があればよい。そこは行政では難しい部分と思うので、民間の力が必要だが、そこだけを運営するのは難しいので工夫が必要。
- ・居場所というと、福祉という印象が強いので、使い方が重要。場所は箱ではなく、精神的なものはずなので、福祉的にとらえすぎない方が良くと思う。地域社会の中に既に沢山リソースのあるものが居場所となると思う。

○ 多分野の連携、多機関の協働について

- ・支援組織とネットワーク、分野を超えてつなげる必要がある。多分野の連携によって、ボトムアップ的に支援に繋げていくようなことが必要ではないか。
- ・子育て支援や教育委員会、産業労働などの横串を刺す必要があるのではないか。
- ・1人の障がい者をとらえてもいろいろな分野でかわりが無いと生活できない。横との連携が福祉を支えていることを実感している。
- ・福祉以外の分野との連携や投げかけ、連携ということをしていった方が良いのではないか。
- ・行政でもネットワークを作ったり、民間にお願いする部分を整理できるとよいと思う。
- ・地域の方の垣根を超えた出会いが生まれるよう、ネットワークの推進が重要と考えている。
- ・取組が少しバラバラというイメージが強いので、行政と団体の連携や多分野との連携の視点は重要と考える。

○ 取組の整理について

- ・この計画の理念や上位概念について意識して進めていく必要がある。
- ・多様な気づきを得るために、学びが必要。それを助ける人をつなげる地域づくりを行う。地域で解決できない部分は行政も含め、専門的に支えていく、後方支援をしていくというような整理ができるのではないか。
- ・地域資源を整理して、関係性を整理していけば、県が、市町村、地域、民間でやるべきことなどが見えてくるのではないか。
- ・行政と民間が何をやるのかという整理。困りごと感によって、相談のレベルも変わってくるので、どこまでが地域で、どこからが専門機関でというようなものも整理できるとよい。
- ・相談の重さなどで整理できると、支援者側がつぶれるようなこともないのではないか。
- ・行政に協働を求めても難しい部分があるので、社会福祉法人等の民間事業者が取り組み内容によって行政の多様な部署と連携することを促すような書きぶりが良いのではないか。

○ 表現等について

- ・重層的支援体制整備は大きく掲げても良いのではないか。ただし、名称については表現が工夫できないかと思っている。
- ・重層的支援体制の中にはボランティアということが入っていないが、どう位置付けるかは考えた方が良いのではないか。
- ・「地域共生」等は福祉のイメージがあるが、福祉の部分だけではない「ごちゃまぜ」というような表現、分野を超えていくような表現をしていった方が良いのではないか。
- ・ヤングケアラー、若者など、福祉という枠が広がっていく中で、どこかに落とし込んでいく必要があるのではないか。